

チームワークに関する研究

—教育的視点からの分析—

新名 悠紀 (福岡教育大学)

1. 目的

チームワークとは、チーム全体の目標達成に必要な共同作業を支え、促進するためにメンバー間で交わされる対人的相互作用であり、その行動の基盤となる心理的変数も含む概念である(山口, 2008)。チームワークは、チームに所属しているメンバーによって作られ、メンバー個人もチームにも影響を与える。そして、チームという集団をうまく機能させるには、そのチームに属するメンバー個人の能力が必要なだけでなく、良いチームワークを構築していくことが必要である。

そこで本研究では、チームワークを構成する要素を調査し、より良いチームワークが構築されるために必要な要素を考察する。その上で、得られた結果を、私の専門分野であり、チームワークや集団の力が必要となる学校教育分野において活かしていくことを目的とする。

2. 研究方法

- 1) 対象者 予備調査においては、F大学の運動部活動2チーム(チームA, チームB)に所属する男子15名(平均年齢 19.90 ± 1.04 歳)。また、本調査においては、福岡県内の大学同好会サッカーリーグにおいて2期連続で3位以上の成績を残している2チーム(チームA・チームB)に所属する計28人(平均年齢 20.46 ± 1.24 歳)。
- 2) 調査方法 対象者にアンケートを取り、そのアンケートで得られた数値の平均値を下位能力ごとに比較し、選抜された下位能力の中でどの能力が重要であるか検討する。

3. 結果と考察

1) 予備調査の結果

予備調査から得られた結果としては、チームワークを構成する要素の中で、良いチームワークを構築するために必要な下位能力として「愛情」「記号化」の2つの項目が特に必要であるのではないかとということである。「愛情」については、チームを支えるものの1つであり、チームメイトの精神的な支えにもなる。また、「記号化」は「チームメイトとコミュニケーションを取るか?」という質問項目であったが、試合中においてはコミュニケーションをすることで自分のしたい動きやチームメイトのしてほしい動きを理解し、連携を高めることが出来るし、試合外においてもコミュニケーションをすることでチームメイトの趣味や生活などについて理解しお互いを知ることが出来るのではないかと考える。コミュニケーションを取り相互理解することで、チームメイトとのより良い関係性を築くことが出来るのではないかと考えられる。

2) 本調査の結果

本調査から得られる考察として、まず本調査の中で高い

数値を得ることが出来た下位能力の項目について確認していきたい。高い数値を得られた項目は、「解読」「調和」「関係構築」「誇り」「愛情」「記号化」の6項目であった。予備調査の結果も含めて、より良いチームワークを構成するために必要な要素として、「調和」「関係構築」「誇り」「愛情」「記号化」の5つの下位能力について着目していきたい。

3) 学校教育への提案

研究I・IIの結果から、より良いチームワークを構成するためには、「調和」「関係構築」「誇り」「愛情」「記号化」の5つの下位能力を身に付けることが必要であるということが分かった。

そして、この5つの下位能力を、学校教育を通して子どもたちに身に付けさせるためには、コミュニケーション能力の育成、周りを見て行動できる能力の育成、学校行事の活用、学級目標や理念を確立することの4つの具体的な取り組みを行うべきではないかということが言える。

4. 結論

本研究では、チームワークを構成する4つの要素に属する下位能力のなかから、より良いチームワークを構成するために必要な下位能力を、アンケートを通して分析し、アンケートを通して得られた結果を、集団の力が重要視されている学校教育に生かすためには、どのような具体的な取り組みが必要であるのか検討することを目的とした。

研究I・IIの結果から、より良いチームワークを構成するためには、「調和」「関係構築」「誇り」「愛情」「記号化」の5つの下位能力を身に付けることが必要であるということが分かった。

そして、この5つの下位能力を、学校教育を通して子どもたちに身に付けさせるためには、コミュニケーション能力の育成、周りを見て行動できる能力の育成、学校行事の活用、学級目標や理念を確立することの4つの具体的な取り組みを行うべきではないかということが言える。

5. 参考文献

- 1) 相川充・高本真寛・杉森伸吉・古屋真(2012) 個人のチームワーク能力を測定する尺度の開発と妥当性の検討. 社会心理学研究 27 (3) :139 - 150.
- 2) 河津慶太・杉山佳生・長尾雄一・山崎将幸・王雪蓮・熊崎絵里(2009) スポーツチームにおけるチームパフォーマンス予測モデルの構築. 健康科学 31 :61 - 68.
- 3) 山口裕幸(2008) チームワークの心理学. サイエンス社: 東京.
- 4) 中央教育審議会(2015) チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申). p. 12.

